

【準決勝 第1試合】

ジョーカーレフットボールクラブ 5対3 FCおゆみ野 ブルー

台風通過の影響で雨と風は残っているが、芝のピッチ状態は良好である。そのような状態の中、千葉市4年生大会の準決勝第一試合、ジョーカーレフットボールクラブ（以下ジョーカーレ）対FCおゆみ野 ブルー（以下おゆみ野）の試合がおゆみ野のキックオフで13時に始まった。

試合開始後から5分間は、両チーム共に中盤で積極的にボールを奪い合い相手陣内に押し込もうとするが、ジョーカーレはラインを下げたディフェンダーがしっかりとボールを奪う、おゆみ野はディフェンスラインを上げて相手フォワードをオフサイドにかける、とそのような攻防が続いた。

5分、ジョーカーレが相手陣内深くまで攻め込んだが、おゆみ野ディフェンダーがカットしたボールを素早く右サイドに展開し、16番 森藤啓太 君のドリブル突破後のセンタリングを11番 渡邊奏 君がゴール右にシュートを決め、おゆみ野が先制点を獲得する。

12分、ジョーカーレ 18番 金子光汰 君が右サイドでボールを受けるとドリブル突破、ペナルティエリア付近からゴール右側へシュートを決め同点に追いつく。

13分、おゆみ野が右サイドで得たコーナーキックを4番 城定瑛大 君が左足でゴール方向に向かうボールを蹴ると、ジョーカーレディフェンダーのオウンゴールを誘う。その後は、おゆみ野ディフェンダー陣が集中力を発揮し、ジョーカーレの前線へのフィードボールを素早い出足でブロックするシーンが目立った。おゆみ野が2対1でリードしたまま前半を終えた。

後半が始まるとジョーカーレが攻勢に出る。開始直後からおゆみ野陣内に攻め込み、コーナーキックを3本連続して獲得。3本目をゴール中央付近で受けた23番 山本大輝 君がシュートを放つ。GKが弾いたボールをゴール前に着実に詰めていた18番 金子光汰 君が同点のゴールを奪う。その後もジョーカーレの攻勢が続くが、決定的なシュートがゴール上側にわずかに外れるなど得点を奪うことができない。

後半9分、おゆみ野がジョーカーレ陣内右奥側でフリーキックを獲得し、ゴール前中央に蹴られたボールを11番 渡邊奏 君がゴールを決める。1点をリードしたおゆみ野はその後の5分間、粘り強くジョーカーレの攻撃を跳ね返していたが、ジョーカーレ 23番 山本大輝 君に同点のゴールを奪われると、前半とは違い自陣ペナルティエリア付近で集中力を継続できないケースが増える。ドリブルとパスで巧みに攻撃の視点を変えるジョーカーレが終盤の試合を優位に進行するが、得点を奪えないで状態で同点のまま迎えたロスタイム、ジョーカーレ7番 藤ヶ崎大貴 君がヘッドで得点し劇的な逆転に成功。その直後にもダメ押しの得点を奪い5対3でジョーカーレが決勝の切符を手にした。

前半はおゆみ野の集中力、後半はジョーカーレの爆発力、と準決勝でストロングポイントを出し合った両チームの健闘を称えたい。

若葉区サッカー協会第四種委員会 技術部 坂本 啓

【準決勝 第2試合】

バディーSC 千葉 6対0 FCラルクヴェール千葉(G)

台風の影響で雨が降り続けている中、14:00にバディーSC（以下、バディー）のキックオフで準決勝第二試合が始まる。キックオフからバディーのポジション、右サイドからセンターバック二人を経由して左サイドへ、まるでゴールに向う入口を探すようにサイドチェンジする。

ボールを受けた左サイドバックは、狭い入口を避けて、再び右サイドに展開！最初のサイドチェンジのパススピードから較べパススピードが上がったため、FCラルクヴェール千葉(G)（以下、ラルクヴェール）選手が対応できず、右サイドの選手がフリーとなりペナルティーエリア付近までボールが運ばれるが、ラルクヴェールDFが何とかはね返す。その後もバディーのポジションが冴え、ペナルティーエリア近くまで何度もボールを運ぶ、しかしラルクヴェール選手の集中力も高く体を張ってディフェンス、GK1番高橋樹君のファインセーブなど、絶対に得点を許さない気迫を見せていたが、バディーの波状攻撃が続く中、4本目のコーナーキックにおいて得点が生まれた。

試合開始から6分、キッカーは10番 松野聖哉君、それまでの3本のコーナーキックでも精度の高いキックでラルクヴェールゴールをおびやかしていたが、4本目のコーナーキックのボールがゴール前でルーズになり、それを見逃さなかった11番 佐久間太一君がしっかり押し込みバディーが先制。

その後10分、バディーDFラインからのピッチを滑るような長いスルーパスがラルクヴェールDFラインの裏に抜け、そこに走りこんだ11番 佐久間太一君が受けて右サイドをドリブル、ゴール前に走り込む9番 齊藤京吾君に合わせて2点目のゴール。

13分、バディー9番 齊藤京吾君が、左サイドを高い技術とゴールへ向うスピードを上げたプレーで3人のラルクヴェールDFを突破、右サイドからゴール前に走りこんだ7番 江口達也君がフリーでボールを押し込み3点目。

18分、バディーのコーナーキック、10番 松野聖哉君のキックしたボールは、ゴール前に走りこんだバディー選手とラルクヴェールGK・DFが交錯した中からボールがゴールへ吸込まれ4点目が生まれ、数分後前半終了のホイッスルが鳴る。

ラルクヴェールも中盤、ディフェンスラインで奪ったボールをFW7番 齋藤壮大君に正確なフィードで預け、何度かゴールに運ぼうとするが、バディー4番センターバックの石川碧彩君を中心に落ち着いた対応でほとんどシュートをさせなかった。

後半は、雨足も弱まった中でキックオフ

前半で見ていたバディーのボールの動きの良さが少し悪くなる。ラルクヴェール選手のねらいを持ったアプローチ、雨足が弱くなりボールの滑りが少し悪くなった分も影響したのか、後半序盤は中盤での攻防が続くが～3分、バディー11番 佐久間太一君が中盤で奪ったボールを右サイドをドリブル突破、ゴール近くで右足深くから切り返して、左足に持ち替えシュート～的確にゴールを捕らえた。

その後は、中盤での攻防が続き、ゴール近くまでボールが運ばれる回数が減った。前半冷たい雨の中の攻防を繰り返す、ならびに一般フルピッチサイズということもあり体力消耗の影響も受けてゴールまでが遠くなった印象を受けた。

アディショナルタイムにバディー21番 千葉亜月君が1点を加え、6-0でバディーが勝利し、決勝戦の権利を得た。

個人スキルの高さに合わせて、ゴールに向う戦術を意識した上で行なっていたポジション、リスクマネジメントしたディフェンス・・・などなど、それらにチャレンジしていたバディー選手に、そして指導者に敬服した。これからの活躍を期待したい。

【決勝】

ジョーカーレフットボールクラブ 0 vs 3 バディーSC千葉

準決勝、点の取り合いを制したジョーカーレフットボールクラブ（以下ジョーカーレ）と危なげない戦いで勝ち上がったバディーSC千葉（以下バディー）の千葉市4年生大会決勝戦が秋雨の中、15:20 ジョーカーレのキックオフで始まった。

前半開始早々はジョーカーレのペース。ジョーカーレ左サイド7番 藤ヶ崎大貴 君の突破からゴール前へ。混戦になるがバディーGK1番 前田優和 君がしっかり押さえる。

立て続けに右サイド23番 山本大輝 君から10番 古川一樹 君へパスが出るも得点には至らない。序盤はジョーカーレが攻勢に出る。バディーは準決勝の疲れからか動きに精彩を欠く。

しかし3分ジョーカーレの一瞬の隙を突きバディー左サイドの11番 佐久間太一 君へパスが通る。ボールを受けた佐久間君はDFを交わしゴール右隅へ技ありのシュートでバディーが先制。この得点を機にバディーの調子が上がってくる。

ジョーカーレも反撃。7分23番 山本大輝 君がミドルシュートを放つもGKにはじかれる。この時間帯は両チーム共に中盤での早くて激しいボールの奪い合いが続く。

前10分バディー左サイドから10番 松野聖哉 君のフリーキック。11番佐久間君に合わせるが惜しくも届かずゴールキックとなる。

15分ジョーカーレ10番 古川一樹 君が右サイドを駆け上がりクロスを上げるもGKに阻まれる。19分バディー7番 江口達也 君の右からクロスも得点には至らず。

一進一退の攻防が続く中、前半終了のホイッスル。バディーが1点をリードし折り返す。

ジョーカーレはどの様にバディーゴールをこじ開けるか、バディーは更に得点を奪えるか、両チーム監督の檄が飛ぶ中、後半のキックオフ。

1分バディー7番 江口達也 君から11番 佐久間太一 君へパスが通るも得点を奪えない。2分ジョーカーレ23番 山本大輝 君から4番 城定瑛大 君へのパスはGKに取られる。

後半も攻守の切替が早い両チーム、試合が拮抗し始め選手交代を行うがなかなか流れが変わらない。

しかし8分バディー6番 荒井圭介 君がドリブルで仕掛け、ルーズボールに反応した9番 斉藤京吾 君がシュートを決めリードを2点とする。

ここから徐々にバディーがペースを握る。

12分バディー7番 江口達也 君、13分バディー11番 佐久間太一 君が立て続けにシュートを放つ。16分バディー10番 松野聖哉 君のコーナーキックのこぼれ球を17番 屋代依誠 君がシュートもゴールならず。

ジョーカーレも選手交代を行い得点を奪いに行く。17分左サイドから7番 藤ヶ崎大貴 君のシュートは惜しくもサイドネット。26番 渡辺亮平 君が中央突破からのシュートもゴールネットを揺らせない。

18分バディー7番 江口達也 君のシュート。GKがはじき、こぼれた所に11番 佐久間太一 君がダメ押しの3点目を叩き込んだ。

このまま試合終了、バディーが千葉市4年生の頂点に輝いた。

バディー6番 荒井 君、10番 松野 君を中心としたMF陣は、9番 斉藤 君、11番佐久間 君、7番 江口 君らの得点チャンスを幾度となく演出した。また決勝トーナメント5試合を失点1に抑えたキャプテン4番 高山敦広 君らDF陣も評価したい。

集散を上手く使い分け失わないボールキープ、ドリブル突破、決定力等4年生とは思えないくらい高い精度だった。

敗れはしたがジョーカーレの個の能力には驚いた。23番 山本 君、11番 渡辺 君はドリブル、シュート、パスすべてにおいて質が高い。77番 開米 君を中心としたDF陣も今後が楽しみである。

好ゲームを演じた両チームのこれからの成長、活躍に期待したい。